

平成27年 新年のごあいさつ



宜野湾市長
佐喜眞 淳

輝かしい新年を迎え、謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。

また、旧年中は、本市政へのご理解とご協力を賜わり心より感謝申し上げます。

早いもので、本年は私の任期の最終年度を迎えます。就任からこれまでの間、活気ある宜野湾市を創るために全力で市政運営に取り組んでまいりました。

昨年は、本市で9校目となる「はごろも小学校」はごろも幼稚園が開校し、「男女共同参画支援センターふくふく」も開所いたしました。児童の健やかな成長を願うとともに、誰もが尊重される心豊かな社会の実現を目指してまいります。

さて、本年はいよいよ3月末に返還されますキャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区の跡地利用計画が策定されます。同地区においては、沖縄県が検討している重粒子線治療施設の設置や琉球大学医学部および同附属病院の移設による「国際医療拠点」の形成を目指しており、本市がますます発展していくよう特色あるまちづくりを進めてまいります。

また、最大の課題である普天間飛行場問題については、全面返還に合意されたものの未だ実現されておりません。返還合意の原点は危険性の除去と基地負担軽減であり、固定化は絶対にあつてはならないと危機感を持っております。昨年は、国と県、市の三者で構成する「普天間飛行場負担軽減推進会議」も発足しており、引き続き市民の安全を第一に、日米両政府に対して一日も早い閉鎖・返還と、それまでの間の危険性の除去を強く求めてまいります。

このほか、平成27年度は普天間飛行場周辺まちづくり事業として普天間地区および真栄原地区の交流拠点整備に向けた調査業務や、市民が待ち望んでいる市道宜野湾11号道路整備事業、そして魅力ある西海岸エリアを形成するための西海岸地域開発事業など重要施策を推進し、市民の暮らしの向上を図るため、多様な保育ニーズへの対応や子育て環境の充実、市民の健康づくり、都市基盤整備など諸施策にも取り組んでまいります。

本市の財政状況は、今後も厳しさが続くとの見通しでありますが、課題を乗り越え、市民一人ひとりが幸せを感じられるような宜野湾市を創りあげてまいりたいと存じますので、本年も、市政運営に対するご理解とご協力を賜りますようお願いいたしますとともに、皆さまのご健康とご多幸を祈念申し上げます。

平成27年1月吉日

宜野湾市長 佐喜眞 淳



昨年4月に開校した市立はごろも小学校



宜野湾市議会議長
大城 政利

明けましておめでとうございます。

市民の皆さまには、希望に満ちた新春を健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は市議会活動に対し、温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年9月に発生した「御嶽山噴火」は噴火災害では戦後最悪の死者数を出し、今なお、行方不明の方がおられます。亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りいたします。改めて自然の猛威を実感する年となったのではないのでしょうか。

本市におきましては、主要事業でありますキャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区の返還跡地利用計画も着実な進捗を見せしており、未来につながるまちづくりに向け、市議会としても行政当局との連携を深めながら、取り組んで行く所存でございます。

また、西海岸地域におきましては、観光・商業施設が充実し、スポーツイベントや祭りなど多彩な催しが行われ、市民・県民・観光客が賑わう地域として目覚ましい発展を遂げており、今後も更なる発展を期待しております。

しかしながら、米軍基地普天間飛行場の危険性除去および早期返還問題は、混迷を深めています。今年こそ市民の皆さまに過重な基地負担の軽減を図り、安全で安心して暮らすことのできる「宜野湾市」づくりを目指してまいります。

新しい年に臨み、昨年9月に行われた宜野湾市議会議員選挙におきまして、当選させていただきました私ども市議会議員は、9万6千余の市民の負託に応えるべく、市政発展と市民福祉の向上のため、全力を尽くしていく決意を新たにしております。皆さまのなご一層のご理解と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、平成27年「未年」が市民の皆さまにとりまして、素晴らしい年になりますよう、ご健康とご多幸を心から祈念申し上げます、年頭のごあいさつといたします。

平成27年1月吉日

宜野湾市議会議長 大城 政利



返還が決まっているキャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区